

一般質問発言通告書

発言順位

9番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年6月7日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 6番 石井 真人

| | |
|-------|--|
| 質問事項1 | 長期財政計画の改定について |
| 具体的内容 | 少子高齢化の進展や公共施設保全計画などの大型投資的事業実施による影響等を踏まえ、三島市では令和4年5月に令和32年度までの長期財政計画を改正した為、以下に伺う。 |
| 1 | 令和元年6月議会の際に指摘した長期財政計画について、今回改正されたものと、改正前の扶助費の金額が予測と大きく異なったことへの見解について |
| 2 | 平成25年から令和26年時点までの扶助費の金額について改正前と改正後の累積額の差は。 |
| 3 | 改定前の財政計画では平成28年度を基準とした義務的経費と市税総額と一般財源の算定による各年度の増減の将来予測シミュレーションがあったが、改定後の数字で再算定すると令和26年度までの金額はどうなるか。前回は累積額が約87億円5千万円プラスであったがどのように変化したのか。変化した場合の主な理由は何か。 |
| 4 | 補助費等を平成25年から短期間で2.6倍と急激に増額したにもかかわらず、今後30年間かけて毎年額を減らすことへの考え方。具体的にどの補助費を減らすことが可能と考えるか。 |
| 5 | 再開発事業の費用便益比(令和3年調査)は、1.07。感度分析による工事費の5%上昇で1.03。前回の感度分析は、10%上昇で算出していたが、5%に変更した理由は何か。 |
| 6 | 前回の感度分析で算出した工事費10%上昇の費用便益比の変動幅を踏まえると費用便益比が1.0を下回ると想定されるが、その場合、三島市の対応と国からの補助金の在り方について |
| 7 | 昨今の建築資材価格の高騰の影響を受けて、工事単価が上昇した場合、大型投資的事業への補助事業費が増える等が想定されるが、その際の長期財政計画への影響はどうか。 |
| 8 | 今後予測しえない補助費等への増額も考えうるが、収支の合う変動の上限額はいくらになるか。 |
| 質問事項2 | 三島市まちなかりノベーション推進計画について |
| 具体的内容 | 令和4年3月31日に策定された三島市まちなかりノベーション推進計画に関して以下に質問を行う。 |
| 1 | 計画の対象エリアとなる三島駅、三島広小路、三嶋大社のエリア内における遊休不動産の実態をどの程度把握できているのか。空き家、空き店舗、空地などの軒数や所有者の状況は。 |
| 2 | 東街区再開発は駅前集約の都市型開発、エリア全体のリノベーションは、分散型開発と性質が異なるものを同時に行う理由は何か。また、どのように対象エリア内で整合を図るのか。 |
| 3 | 再開発エリアから街中へ回遊性を持たせる仕組みをどのようにつくるのか。 |
| 4 | 事業を実施する上での補助額の想定上限額は、新規補助事業への投資的経費に関する考え方について |
| 5 | まちなかりノベーション推進計画ではKPI(重要業績評価指標)として何を設定しているのか。 |
| 6 | まちなかりノベーションや空き家等の対策を推進する上で、秩父市や伊賀市のように行政や金融機関など様々な関係者を募ったまちづくり会社のSPCを作り事業を進めてはどうか。 |
| 7 | 平成30年6月の改正旅館業法によって可能となった、ホテルのフロント・宿泊棟・レストラン棟を分離させた街全体がホテルという発想でエリアリノベーションを行い、観光客のまち歩きや朝散歩などと連動するようなエリア全体を生かした仕組みを考えてはどうか。 |